

取手市23年度産米放射性物質予備調査

茨城県では8月初旬より穀類、野菜、畜産、魚介類などの農林水産物から131品目(検体数1010)の農林水産物の放射性物質検査を行なっています。

さらに新米の収穫時期をまじかに控え、全国的に23年度産米の放射性物質検査が行われています。

茨城県では予備検査は13市町村で、本調査は全市町村を対象に計約400カ所で行なわれますが、取手市では8月18日から予備調査が3箇所で行われ、24日何れも「検出されず」という結果が発表されました。



米放射性物質検査結果 (予備調査: 取手市)

採取地(旧市町村)	放射性セシウム(Bq/kg)	
	134	137
小文間(小文間村)	検出せず	検出せず
宮和田(相馬町)	検出せず	検出せず
中内(山王村)	検出せず	検出せず

取手市で行われた予備調査で左表の通り放射能物質は検出されませんでした。

取手市はこの後収穫された玄米による「本調査」が行われます。



今回の検査は、農林水産省が示した方法に基づき、収穫前の予備調査と収穫後の本調査の2段階で行われます。この検査は茨城県だけでなく全国30都府県にのびります。

茨城県の予備調査の対象は13市町村。6月の調査で空間放射線量率が平常時を超えた北茨城、大子、高萩、日立、常陸太田、東海、ひたちなか、茨城、鉾田、美浦、牛久、守谷、と共に取手市も対象となっています。

安全性が確認された市町村から順次、出荷販売していく予定になっています。

調査結果は県及び市のホームページにより公開するとともに、市又は米集荷業者から米生産農家へ直接連絡されます。

茨城県のホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/>

今月中旬、潮来市の農家から採取した早場米調査、鹿嶋と神栖市、計11箇所で行われた本調査はいずれも「検出せず」でした。また、鉾田市の3箇所で行われた予備調査では1箇所の玄米からごく微量(1kg当たり52ベクレル)の放射性セシウムが検出されましたが、数値は暫定基準の1割です。その後、阿見、坂東、稲敷、かすみがうら、行方、河内、五霞の7市町村で本検査が、牛久、茨城、美浦、そして取手の4市町村で予備調査行われましたが、すべて「検出せず」の結果がでています

最大の敵、風評被害を防ぐ!

予備調査に選ばれた地域であるというだけで、風評被害のきっかけになりかねません。事実、昨年の米の需要が増えているという現実があるように放射能に関しては厳しい反応が見られます。

今回の検査はあくまで安全性を立証し、全国へアピールするツールとしなければなりません。

正確な情報を的確に消費者に伝えるため首長、農業委員会、土地改良区、農協と調査、協議しながら最良の策を県へ、国へ求め、この地域での風評被害を最小限に抑えるよう精力を傾注します。

